

令和5年度

3月のおれんじサロン ひと・まち

～若年性認知症本人交流会～

令和6年3月13日（水）

＼ 本人同士の交流は やっぱり大事！ ／

今回は、今年度チームおれんじサロンで取り組んだ“若者とコラボした認知症啓発プロジェクト”の発信ツールのInstagramからつながった、大津市の若年性認知症カフェ結芽の方（ご本人・ご家族・支援者の7名）と交流しました。

全体で自己紹介等した後、各グループに分かれて情報交換やそれぞれの思いを話すなど、交流を深め有意義な交流が図れました。（交流内容を一部紹介）

本人グループ

・本人同士が話す場面において、認知症当事者にも、意見が合わない人や共感できる人など、いろんな人が居て当たり前。

「いろんな人が居ることが“普通”だよなー」

・自分以外の当事者との出会いは、パワーにもつながる。

・本人と家族が衝突する場面もあるけれど、話し合い、関係性を棚卸し（見直す）することが大事だよ。



出合いがパワーになる！

家族グループ

・診断後支援者につながるまで、病院の相談窓口、行政や包括にも相談したが、たらい回しにされた印象だった。現在カフェ結芽も当事者が一人で、当事者同士のつながりが無い。自分はいろいろ調べて辿りついたが、声をあげられない人もたくさんいると思う。診断直後から支援につながる仕組みを作ってほしいと思う。



・病院や行政の人でも、制度や施策に精通している人が少ないと感じる。

・本人と家族がぶつかるのは、仕方ないと思っている。二人きりでは煮詰まる時もあるからできるだけ外出機会を作り、他の人と交流するようにしている。

自分のメンタルを優先したらいい。

・自分のメンタルが良いと本人も落ち着いているように思う。

【来月の予定】 4月24日（水）午後2時～開催

※ 参加希望の方は下記までご連絡ください

【お問い合わせ】 京都市長寿すこやかセンター 電話(075)354-8741



【Facebook ページの QR コード】